

幼稚園等教諭の資質向上に関する指標

五つの柱	構成要素	養成段階	千葉県・千葉市が求める教員像	ステージⅠ 【成長期】 (学級経営等) 学級担任等としての 自覚と資質能力の向上	ステージⅡ 【発展期】 (学年経営、園務分掌主任等の ミドルリーダー) ミドルリーダーとしての 自覚と資質能力の向上	ステージⅢ 【充実期】 (園運営等、職員全体へ指導・助言) チーム学校をリードする 自覚と資質能力の向上
A 教職に必要な素養	1 使命感 責任感 教育的愛情 高い倫理観 コンプライアンス 服務規律の遵守	教職の意義 教員の役割 教職への意欲 課せられる義務等	教育実習（指導教員のもとで体験を積み、幼児期の教育の実態を体験的に理解する）	教員としての職務に対する使命感、責任感、教育的愛情を持ち、教職に対する強い情熱を持っている。また、教育公務員として高い倫理観と不祥事根絶への意識を持ち、服務規律を遵守し、公正に職務を遂行している。		
	2 社会性 コミュニケーション能力	広い視野 学び続ける意欲 コミュニケーション能力		豊かな人間性や人権意識を持ち、他の教職員や幼児、保護者、地域住民等と、自らの意見も効果的に伝えつつ、円滑なコミュニケーションを取り、良好な人間関係を構築している。		
	3 社会の変化への対応 広い視野 学び続ける意欲			教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探求心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続けている。		
	4 教職に関する教養	教育の理念、歴史、思想 社会的・制度的・経営的事項等 についての基礎的知識（選択）		教育に関し、社会的・制度的事項やその意義、歴史等について理解するとともに、最新の動向に関し情報を収集している。		
B 保育に関する実践的指導力	5 各領域についての専門性	幼稚園教育要領に示された領域のねらい、内容		幼児期の教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることを理解し、各領域のねらいと内容に基づく活動全体を通して、幼児期の教育において育みたい資質能力を育成するための力量を身に付けている。		
	6 環境の構成 保育の展開	基礎的な保育指導理論や発達や学びの過程 指導技術 具体的な保育計画や保育を構想する方法		幼児の生活経験や心身の発達の過程に関する理解に基づき、幼児の健やかな成長に向けた環境の構成と保育の展開を行うとともに、自身の保育の評価を適切に行い、継続的に改善している。		
	7 幼児の発達の過程や特徴の理解と幼児との信頼関係の構築	幼児の心身の発達の過程、特徴、幼児理解の必要性、一人一人の発達の特性に応じた指導		幼児期の生活は、大人との信頼関係に支えられていることを理解し、幼児との信頼関係を構築するとともに、幼児一人一人を多面的・多角的に捉え、よさを生かし可能性を引き出す指導をしている。		
	8 教育に関する相談 個別の支援	園における教育相談の意義及び理論 教育相談を進める際に必要な基礎的知識		教育に関する相談の意義や理論を理解し、幼児一人一人の課題の解決に向け、個々の思いや姿を共感的に受け止め、園生活への適応や人格形成の基礎を培うための支援をしている。また、教育に関する保護者の相談に応じ、保護者と連携を図っている。		
	9 人権教育の推進	人権教育の理念 理念に基づく、いじめ等の指導上の課題に対する適切な対応の在り方		人権教育の理念のもと、相手の気持ちや自分の言動を体験を通して考えさせたり、人としてしてはならないことの気付きを促したりしている。また、保育上の課題に対し、他の教職員、保護者、関係機関等との連携を図りながら、一人一人の幼児に適切に指導している。		
	10 キャリア教育	意義及び理論、指導の在り方等		幼児が社会生活と関わることの意義を理解するとともに、県の産業構造等を把握し、地域の身近な人と触れ合いながら、園の教育活動全体を通じて、幼児が自分らしい生き方をするための支援をしている。		
C チーム学校を支える資質能力	11 教育課程の管理・運用	各園で編成される教育課程についての意義及び編成の方法 各園の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義		カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、教育課程の評価、人的・物的な体制の確保・改善等の観点を持って、組織的かつ計画的に教育課程を編成・実施し、常に園の実態に応じた改善をしている。		
	12 園務分掌と連携・調整	指導以外の園務を含めた教員の職務の全体像		限られた時間や資源を効率的に用いつつ、園運営の持続的な改善を支えられるよう、園務に積極的に参画し組織の中で自らの役割を果たしている。		
	13 家庭や地域、関係機関等との連携・協働	取組事例を踏まえた家庭・地域との連携、協働の仕方 園の担う役割が拡大する中、内外の関係機関との連携、分担して対応することの必要性		家庭や地域、就学前から高等教育までを通した異校種間及びその他の関係機関との連携・協働に努め、地域とともにある園づくりに取り組んでいる。また、小学校教育との円滑な接続のため、幼児と児童が交流できる機会を積極的に設けている。		
	14 研修（研究）体制	研究と修養の必要性 資質能力の向上の必要性		自らの研修履歴や学びを振り返り、研修（研究）における成果と課題を把握するとともに、教員としての資質能力の向上を図るために必要な研究と修養に努めている。また、園内研修を教員同士の学び合いの機会として捉え、積極的に参加している。		
D 特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応	15 特別な配慮や支援を必要とする幼児の理解	特別な配慮や支援を必要とする幼児の特性及び発達の理解		特別な配慮や支援を必要とする幼児の特性等を理解し、きめ細かく支援するために、幼児一人一人の教育的ニーズを把握している。		
	16 保育上の支援	保育上の支援に関する知識や方法		他の教職員、保護者、関係機関等と連携しながら、特別な配慮や支援を必要とする幼児の教育課程の編成について適切に対応し、一人一人の状況に応じた生活上の支援を工夫している。		
E ICTや情報・教育データの活用等	17 保育に関するICT利活用	保育におけるICTの活用法 ICTを活用した幼児の支援		園におけるICT利活用の意義を理解し、幼児の生活や学びが豊かになるように、ICTを効果的に活用し、保育実践をしている。		
	18 ICTによる園務効率化	情報機器の操作 情報機器の活用に関する理論及び方法 ICTを活用した園務の推進		ICTは幼児期の教育を支える基本的なツールとして必要不可欠なことを理解し、教育データの蓄積・分析・利活用等を通して、園務の効率化を進めている。		

※千葉県・千葉市教員等育成指標は、千葉県教育委員会ホームページ
(<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shidou/shihyou/documents/03youtienkyouyutou-sihyou.pdf>)に掲載しております。